

家族社会学特論 I

担当教員 澤田 佳世

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習の目的は、(1)質的調査法のテキストおよび質的調査を用いた家族とジェンダーに関する先行研究を精読し、(2)その成果から問題設定・調査の企画設計・質的調査法と質的データの分析手法、データの理論化の手法について学び、(3)各自の研究テーマへの実践的な応用力を涵養することである。上記領域の基本文献を講読対象とし、その各文献に示された家族とジェンダー研究の知見を習得するとともに、各文献で採用されている問題設定・調査の企画設計・質的調査法と質的データ分析手法の特性、データの理論化の過程を検討する。最終的には、以上の知見を応用して、質的調査法による各自の研究テーマへの具体的適用を図る。

【授業の展開計画】

2011年度は、質的調査法の中でも特にフィールドワークによる聞き取り調査に焦点をあて、質的データ分析ソフト《Max QDA》を用いて演習をすすめていく。

【授業の展開計画】

1. イントロダクション：本演習の目的と進め方
2. 質的調査法とは何か：質的調査の特性と種類（聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析、フィールドワーク、ライフヒストリー分析）、その魅力と問題点
3. フィールドワークとは何か (1)
4. フィールドワークとは何か (2)
5. 聞き取り調査の方法 (1)
6. 聞き取り調査の方法 (2)
7. 質的データの整理と分析の手法：質的データ分析ソフト《Max QDA》の活用
8. データから理論へ
9. 質的調査による〈家族〉とジェンダーの社会学(1)：基本文献（著書）の購読
10. 質的調査による〈家族〉とジェンダーの社会学(2)：基本文献（著書）の購読
11. 質的調査による〈家族〉とジェンダーの社会学(3)：基本文献（論文）の購読
12. 質的調査による〈家族〉とジェンダーの社会学(4)：基本文献（論文）の購読
13. フィールドワークとインタビュー調査の個別テーマへの応用実践(1)：受講生の個人発表と指導
14. フィールドワークとインタビュー調査の個別テーマへの応用実践(2)：受講生の個人発表と指導
15. 統括：質的調査法と家族とジェンダーの社会学
16. 統括：質的調査法と家族とジェンダーの社会学

【履修上の注意事項】

- ①授業は、受講生の購読文献のレビューと応用実践の口頭発表により進行する。
- ②発表者からの問題提起を受けて討論を行い、質的調査法と各テーマについての理解を深める。

【評価方法】

出席回数、購読文献の発表、応用実践の発表、討論の参加姿勢と貢献度で総合的に評価する。

【テキスト】

教科書は指定しない。講読文献は履修者の研究関心に応じて選定する。

【参考文献】

佐藤郁哉『フィールドワーク（増補版）』『実践 質的データ分析入門』、桜井厚『インタビューの社会学』、山中速人編『マルチメディアでフィールドワーク』、ホルスタイン『アクティブ・インタビュー』、戈木クレイグヒル滋子『グラウンデッド・セオリー・アプローチ』等。その他参考文献については授業時に適宜紹介する。

家族社会学特論Ⅱ

担当教員 澤田 佳世

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

性、生殖、身体、恋愛やセックス、そして家族——私たちが「自然」で「不変/普遍」と思っているものは、いつの時代どの社会でも「自然」で「不変/普遍」なのか。また、それらは社会や文化、政治や経済とは無関係な「個人的/私的」な問題なのか。本演習では、性や家族をめぐる私たちの「常識」を問い直し、性や家族の多様性/多義性、歴史的変容とその要因を考察していく。ジェンダー/セクシュアリティ、エスニシティ/「人種」、階級/階層といった概念をクリティカルに駆使しながら、近代化/グローバル化と少子高齢化が進行する現代社会の性と家族、その過去と今を、「近代家族」と「再生産領域のグローバル化」をキーワードに検討する。

【授業の展開計画】

第1回：ガイダンス

第2-16回（以下の各テーマを数回にわたり取り扱う）

- ①性と家族の社会学
- ②恋愛と結婚
- ③人口問題と「子どもを産む/産まない」ということ
- ④「少子化」と生殖医療技術
- ⑤身体/子宮の国際商品化
- ⑥高齢化とケア
- ⑦ケア労働の国際移転

※ 内容理解を深めるために、ビデオなど映像資料を利用して授業を進める。

【履修上の注意事項】

- ①授業では、受講生に研究関心と関連するテーマの文献をレビューし発表してもらう。
- ②発表者からの問題提起を受けて討論を行い、テーマについての理解を深めていく。

【評価方法】

授業での発表、討論への参加姿勢と貢献度で総合的に評価する。

【テキスト】

参加者各自の研究関心と希望に応じて選定する。

【参考文献】

参加者各自の研究関心と希望に応じて選定する。

考古学特論 I

担当教員 池田 栄史

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現在の考古学研究は、文化人類学的傾向をもつアメリカ考古学的方法と歴史学的傾向を持つ中国や日本などの東洋考古学的方法の二つのあり方が認められる。沖縄の考古学はこの双方の考古学研究方法が混在する地域であり、その境界領域とも言える。本講義ではこのような双方の考古学研究方法の理論と研究事例を確認し、これが沖縄の考古学研究にどのような影響を及ぼしているかを検証する。その上で、日本列島や韓半島を含めた東アジア地域の考古学研究成果と比較することによって、琉球列島を含む東アジア地域における考古学研究状況の総合的な把握と問題点の抽出を試みる。

【授業の展開計画】

基本的に講義形式の授業を行なう。
ただし、内容に応じて、先行する論文や研究書を輪読しながら、これを素材として講義を進めることもある。大きくは考古学研究史、研究方法論、時代各説、研究特論という順序で、一年間を通した講義を進める。講義の最後に質問を含めた討議の時間を設ける。

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

出席と受講生の関心の度合いを見て評価する。

【テキスト】

【参考文献】

特に指定しない。講義の中で、随時、紹介する。

考古学特論Ⅱ

担当教員 池田 栄史

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

現在の考古学研究は、文化人類学的傾向をもつアメリカ考古学的方法と歴史学的傾向を持つ中国や日本などの東洋考古学的方法の二つのあり方が認められる。沖縄の考古学はこの双方の考古学研究方法が混在する地域であり、その境界領域とも言える。本講義ではこのような双方の考古学研究方法の理論と研究事例を確認し、これが沖縄の考古学研究にどのような影響を及ぼしているかを検証する。その上で、日本列島や韓半島を含めた東アジア地域の考古学研究成果と比較することによって、琉球列島を含む東アジア地域における考古学研究状況の総合的な把握と問題点の抽出を試みる。

【授業の展開計画】

基本的に講義形式の授業を行なう。
ただし、内容に応じて、先行する論文や研究書を輪読しながら、これを素材として講義を進めることもある。大きくは考古学研究史、研究方法論、時代各説、研究特論という順序で、一年間を通した講義を進める。講義の最後に質問を含めた討議の時間を設ける。

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

出席と受講生の関心の度合いを見て評価する。

【テキスト】

【参考文献】

特に指定しない。講義の中で、随時、紹介する。

国語教育学特論 I

担当教員 仁野平 智明

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

国語科教育を対象領域として、前半は「話すこと・聞くこと」の教育について、後半は「書くこと」の教育における課題について考える。研究の視点・方法などについて文献や資料をとりあげて理論的に考察するとともに、授業研究など実践的な考察も合わせて行う。

受講者が、国語科教育における今日的な課題のありようを構造的にとらえることができ、実践的研究者・研究的実践者としての資質を養うことができることを目標とする。

【授業の展開計画】

- | | |
|------------------|------------------|
| ① ガイダンス | ⑨ 「書くこと」の教育の概要 |
| ② 話し言葉教育の概要 | ⑩ 「書くこと」の教育の歴史 |
| ③ 話し言葉教育の歴史 | ⑪ 「書くこと」の教育の指導体系 |
| ④ 話し言葉教育における指導の場 | ⑫ 「書くこと」の教育の評価 |
| ⑤ 話し言葉教育の内容・方法 | ⑬ 「書くこと」の教育の発展 |
| ⑥ 話し言葉教育の評価 | ⑭ 授業研究 (3) |
| ⑦ 授業研究 (1) | ⑮ 授業研究 (4) |
| ⑧ 授業研究 (2) | ⑯ まとめ |

【履修上の注意事項】

毎時間とも、担当者の発表をもとにした討議を中心とする。

前期に「特論Ⅰ」、後期に「特論Ⅱ」を開講するが、どちらからでも履修を認める。

【評価方法】

出席、発表内容、授業への取り組みによって評価する。

【テキスト】

【参考文献】

『国語科教育学研究の成果と展望』（明治図書）

『朝倉国語教育講座 3 話し言葉の教育』『朝倉国語教育講座 4 書くことの教育』（朝倉書店）

国語教育学特論Ⅱ

担当教員 仁野平 智明

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

国語科教育を対象領域として、「読むこと」の教育における課題について考える。研究の視点・方法などについて文献や資料をとりあげて理論的に考察し、授業研究など実践的な考察も合わせてを行う。

受講者が、国語科教育における今日的な課題のありようを構造的にとらえることができ、実践的研究者・研究的実践者としての資質を養うことができることを目標とする。

【授業の展開計画】

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ① ガイダンス | ⑨ 「読むこと」の指導の内容・方法（5） |
| ② 「読むこと」の機能 | ⑩ 授業研究（1） |
| ③ 「読むこと」の教育の歴史 | ⑪ 授業研究（2） |
| ④ 「読むこと」の指導体系 | ⑫ 授業研究（3） |
| ⑤ 「読むこと」の指導の内容・方法（1） | ⑬ 授業研究（4） |
| ⑥ 「読むこと」の指導の内容・方法（2） | ⑭ 授業研究（5） |
| ⑦ 「読むこと」の指導の内容・方法（3） | ⑮ 授業研究（6） |
| ⑧ 「読むこと」の指導の内容・方法（4） | ⑯ まとめ |

【履修上の注意事項】

毎時間とも、担当者の発表をもとにした討議を中心とする。

前期に「特論Ⅰ」、後期に「特論Ⅱ」を開講するが、どちらからでも履修を認める。

【評価方法】

出席、発表内容、授業への取り組みによって評価する。

【テキスト】

【参考文献】

- 『国語科教育学研究の成果と展望』（明治図書）
『朝倉国語教育講座2 読むこと』（朝倉書店）

国際社会学特論

担当教員 新垣 誠

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

グローバル化が急速に進む今日、私たちの生活と海外の諸地域との交互依存関係は日々深まるばかりである。また難民や労働移民など多くの人の移動は、私たちの社会や文化、政治や経済などに大きな変動をもたらしている。このような現象を学際的に読み解き、人類が共生共存できる社会形態のあり方を、地球レベルで考える。講義のテーマは「グローバリゼーション」。産業革命以来、私たちの生活や他者との関わり方、そして国際社会のあり方を大きく変えてきたこの現象を学際的視座から多角的に捉え、その力学を歴史、政治、経済、文化の側面から分析できる力をつける。

【授業の展開計画】

- ① グローバリゼーションと国際社会：概観
- ② 貧困、紛争、環境：国際社会の抱える課題と取組み、その歴史と現状
- ③ 開発教育と「地球市民」という概念
- ④ 人口移動とアイデンティティの多様化
- ⑤ 人権問題、ジェンダー・ジャスティス
- ⑥ 新植民地主義とエスニック・民族紛争
- ⑦ 宗教紛争と国際テロリズム
- ⑧ トランスナショナルな社会形態と新たなナショナリズムの台頭
- ⑨ NGO・NPO：新たな社会変革への始動
- ⑩ 環境問題と国際社会
- ⑪ 世界の貧困と「ミレニアム開発目標」
- ⑫ 軍事主義と国際社会
- ⑬ グローバリゼーションと沖縄

【履修上の注意事項】

講義への出席ならびに参加を重視します。講義の全日程に参加できることを強く希望します。講義内容についての質問は makoto@ocjc.ac.jp まで。

【評価方法】

出席、授業やディスカッションへの参加、課題やリサーチペーパーをもとに総合的に評価します（講義内容に関連するテーマをもとに、リサーチペーパーの提出を義務づけます）。

【テキスト】

【参考文献】

講義に必要な文献、資料および教材は担当者が準備します。

社会学研究法特論

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本科目は、社会調査に基づいた研究テーマを有する大学院生が社会調査の企画と設計、調査の実施、分析・集計に関する知識と技能を実践的に習得することを目的とするものである。とくに、社会調査の技法に関する初歩から、研究テーマと方法論との論理構成上の積み上げ、さらに社会調査の実践等に関して指導していくものとする。調査方法論の基礎や調査倫理はもちろんのこと、質的調査の技法と分析・整理のポイント、量的調査に関する調査方法の仮説構成、調査票作成、サンプリングの理論と技法、対象者・フィールドの選定などをレクチャーし、調査の実施、調査データの整理等を行なう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会調査の初歩（社会調査の企画・設計に向けたオリエンテーション）
2	社会調査と調査倫理
3	研究方法とデータ収集法との論理的関係（個別具体的テーマから概念構成と仮説提示の論理へ）
4	社会調査の入口（学術情報ネットワークの活用術、CiNii等）
5	社会調査の種類—質的調査①（参与観察法と非参与観察法）
6	社会調査の種類—質的調査②（ドキュメント分析と生活史法）
7	社会調査の実践I—質的調査の実践（個別テーマに則し質的調査を用いてデータ収集を実践する）
8	社会調査の種類—量的調査①（概念構成および仮説提示から変数構築に向けて）
9	社会調査の種類—量的調査②（調査票の作成方法：ワーディング等の基本ルール）
10	社会調査の種類—量的調査③（対象者・フィールドの選定法、およびサンプリングの理論と技法）
11	社会調査の実践II—量的調査の実践（個別テーマに則し簡単な調査票調査の実践）
12	量的データの整理①（エディティング、コーディング、データクリーニング）
13	量的データの整理②（フィールドノート作成、コードブック作成）
14	量的分析とグラフ作成（標本誤差と簡単な検定法、およびSPSS等のPC活用術）
15	まとめとふりかえり（量的調査の報告レポート、および質的・量的調査に関する総合的なまとめ）
16	補習

【履修上の注意事項】

内容が抽象的にならないように、修士論文の研究テーマに即したかたちで具体的に社会調査の企画・設計、実践等についてレクチャーと議論を展開する。よって、大学院入学時の研究計画書を使用するので、持参すること。

【評価方法】

提出物（論文・レポートなど）、出席回数、その他（発表やディスカッションへの取り組み姿勢）

【テキスト】

大谷信介他編著、『社会調査へのアプローチ—理論と方法—』（第2版）、ミネルヴァ書房、2005年。

【参考文献】

適宜紹介する。

社会心理学特論 I

担当教員 中村 完

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会心理学の領域の中での「自己」、「対人・社会的認知」、「帰属過程」、「文化と社会行動」、「集団行動」、「社会規範」等の諸テーマに関連させて、沖縄の社会的・文化的現象をいくつか概観し、広く心理学的立場から考察したい。その際、このような現象を理解するために有効と思われる理論や方法論等を探索する。本特論においては、「沖縄人の意識構造論」、「社会化とモダル・パーソナリティ」、「文化的自己観論」、「自己カテゴリー化論」、「社会的アイデンティティ論」等について学習する。次に、上述の社会的現象に類似する社会的問題等を、学生自らが提起し、それについて上述の理論や他の心理学的立場から受講者全体で考察していく。この過程を通して、沖縄の社会的問題の改善の方策に接近したい。

【授業の展開計画】

社会心理学と臨床心理学との連携について考察する。なお、第1回のオリエンテーション時に受講生との話し合いによって展開計画が若干変更されることもある。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、社会心理学とは、その位置
2	社会心理学の主なテーマ
3	社会心理学的に見る沖縄の社会的・文化的現象
4	沖縄人の意識構造論
5	県民性とモダル・パーソナリティ
6	文化的自己観論
7	自己カテゴリー化論
8	社会的アイデンティティ論（1）
9	社会的アイデンティティ論（2）
10	社会心理学と臨床心理学との連携
11	学生による課題発表
12	学生による課題発表
13	学生による課題発表
14	学生による課題発表
15	学生による課題発表
16	本特論の総括的考察 学んだ事のまとめ（テストに代わって）

【履修上の注意事項】

- ◎次回の予告テーマについて予習すること。
- ◎毎回のディスカッション時に自分の考えを述べること。

【評価方法】

評価は、1) 出席点、 2) 課題発表の内容、 3) ディスカッションへの参加度、等から総合的に行う。

【テキスト】

【参考文献】

- (1) 東江平之(1991)「沖縄人の意識構造」沖縄タイムス社、(2) M. A. ホッグ/D. アブラムス (吉森護・野村泰代 訳) (1995)「社会的アイデンティティ理論—新しい社会心理学体系化のための一般理論—」北大路書房、(3) 細江達郎・菊池武剋(2009)「社会心理学特論」放送大学教育振興会、(4) 間場 寿一[編](2006)「社会心理学を学ぶ人のために」

社会心理学特論Ⅱ

担当教員 中村 完

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

特論Ⅰで学習した社会心理学的理論や、沖縄県民を対象とした先行の各種調査報告書、あるいは各関係機関発行の統計資料等に基づき、本県に顕在する人間科学的に関心が持てる社会的・文化的現象を抽出し、社会心理学的立場からアプローチする。特論Ⅰに比べ、特論Ⅱではより具体的、実際の沖縄の光と影と解される部分を取り挙げる。因みに、現時点では下記の「授業の展開計画」に記載されているテーマ等が考えられる。このようなテーマに関して、戦後県民が経験した大きな社会変動の功罪等と関連させて受講者全員で考究したい。このような論議を経て、県民にとって望ましい社会のあり方について考えるヒントを得たい。

【授業の展開計画】

授業の展開計画は、受講生との話し合いによって若干変更されることもある。

- 1回オリエンテーション
- 2回特論Ⅰの概要説明
- 3回各種調査報告書等の検討
- 4回社会的・文化的現象の抽出
- 5回児童・生徒・若者の活躍
- 6回高齢者への期待
- 7回シャーマニズムについて
- 8回観光・環境保全・社会心理
- 9回武道・芸能の心理学的考察
- 10回県民所得と自己実現
- 11回社会不安（戦争不安）
- 12回社会不安（自治不安・人権不安）
- 13回社会規範（飲酒運転・少年非行）
- 14回結婚観・離婚観
- 15回特論Ⅱの総括的考察
学んだ事のまとめ

【履修上の注意事項】

- ◎次回の予告テーマについて予習すること。
- ◎毎回のディスカッション時に自分の考えを述べること。

【評価方法】

評価は、1) 出席点、2) 課題発表の内容、3) ディスカッションへの参加度、等から総合的に行う。

【テキスト】

【参考文献】

1. 沖縄県統計協会発行の各年の「沖縄県統計年鑑」
2. 沖縄県企画開発部発行の「沖縄県勢のあらまし」
3. 中村 完 編（2005）「復帰後沖縄における社会不安に関する継続的研究」

社会統計学特論

担当教員 原田 真知子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この科目は、社会文化現象に関する概念モデルの計量的分析方法を修得することを目的とします。社会学的研究では、概念を経験的に測定可能な指標に操作し、作業仮説で表現します。この作業仮説の妥当性と有効性を検証するために、しばしば統計的分析技法が用いられます。この科目では、社会学的研究で用いられることの多い離散データ（クロス集計表や2値データ）の扱い方を中心に、複数の変数間の因果関係やデータの構造をどのように分析し、仮説検証するのかを解説します。取り上げる多変量解析法は、重回帰分析、ロジスティック回帰分析、ログリニア分析に限定し、基本から丁寧に解説します。

【授業の展開計画】

授業は以下の3部構成とします。

1) 多変量解析のための統計の理論的基礎を概説します。統計パッケージソフト (SPSS) を用いてデータを処理しながら統計の基礎を復習します。2) 各々の多変量解析の特性と利用上の留意点を実践的に学べるよう、実際の社会調査データを用いた分析実習を行います。SPSSによる分析手順と結果の解釈法および分析結果の記述方法を学びます。3) 最後に、履修生の研究テーマに関する先行研究のなかから、授業で紹介した多変量解析法を用いた実証的研究を選定し、論文の読解を行います。仮説の立て方やデータの選択と加工、分析手法の選択、結果の記述と考察について先行研究に学ぶことは、自身の分析論文執筆に参考になるはずです。

PartI 多変量解析のための基本統計法

第1～2回 多変量解析とは、多変量解析法の種類、統計パッケージソフトの基本的操作

第3～4回 多変量データ行列と基本統計量、共分散と分散、標準偏差、相関係数

PartII 多変量解析の実際

第5回 重回帰分析(1) …… 回帰分析の基本、モデルの評価

第6回 重回帰分析(2) …… 回帰モデルの比較検討、分析時の注意点

第7回 回帰分析の応用 …… 独立変数に質的変数を含んだ回帰分析、一般線形モデル

第8回 ロジスティック回帰分析(1) …… オッズと対数オッズ

第9回 ロジスティック回帰分析(2) …… 係数の推定と検定、モデルの評価と解釈

第10回 ロジスティック回帰分析(3) …… モデルの比較検討

第11回 ロジスティック回帰分析(4) …… 交互作用を含んだ分析、分析時の注意点

第12回 クロス表の分析(1) …… 独立性の検定、関連係数

第13回 クロス表の分析(2) …… 多重クロス表のログリニア分析、期末レポート概要

第14回 クロス表の分析(3) …… 多重クロス表のログリニア分析、期末レポートの相談

PartIII 多変量解析法を用いた研究事例

第15回 多変量解析法を用いた原著論文の読解と討論、期末レポートの相談

第16回 総括：修士論文への応用、記述上の注意点、期末レポートの提出

【履修上の注意事項】

- 1 調査データからクロス集計表を作成した経験があることが望ましい。
- 2 プリントや参考論文などの資料を毎回配布するので、しっかりファイリングすること。

【評価方法】

平常点(40%)と期末レポート点(60%)で評価する。平常点は授業への参加と実習課題の進捗状況による。

【テキスト】

履修生の学習歴を聞いてからどちらか一冊を指定する。

岩井紀子ほか「調査データ分析の基礎：JGSSデータとオンライン集計の活用」有斐閣 2800円 または 村瀬洋一ほか共編「SPSSによる多変量解析」オーム社 2800円

【参考文献】

Alan Agresti「カテゴリーカルデータ解析入門」サイエンティスト社、足立浩平「多変量データ解析法」ナカニシヤ出版、太郎丸博「人文科学 カテゴリーカルデータ解析」ナカニシヤ出版、柳井晴夫「多変量解析 実例ハンドブック」朝倉書店

植民地社会特論 I

担当教員 比屋根 照夫

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近代日本の沖縄統治のあり方を広く植民地政策との関連でとらえ、さらに台湾・朝鮮の植民地統治のあり方と比較検討する。沖縄—台湾—朝鮮を貫く線を植民主義の観点からとらえ直し、さらに東南アジアへも研究の視点を広げていく。

【授業の展開計画】

- | | |
|----------------|-----------|
| ① 明治国家と琉球処分 | 第1回 |
| ② 自由民権思想とアジア | 第2回～第3回 |
| ③ 脱清派の歴史位置 | 第4回 |
| ④ 自由民権派の沖縄像 | 第5回～第6回 |
| ⑤ 琉球新報の誕生と大田朝敷 | 第7回～第8回 |
| ⑥ 謝花昇と参政権獲得運動 | 第9回～第10回 |
| ⑦ 伊波普猷の思想 | 第11回～第12回 |
| ⑧ 伊波月城のアジア観 | 第13回 |
| ⑨ アジア植民地と沖縄 | 第14回～第15回 |

【履修上の注意事項】

配布資料を毎時間持参すること

【評価方法】

出席点
レポート提出

【テキスト】

【参考文献】

- ① 比屋根照夫著『アジアへの架橋』（沖縄タイムス刊、1994）
- ② 比屋根照夫著『近代沖縄の精神史』（社会評論社、1996）
- ③ 比屋根照夫共著『日本はどこへ行くのか』（『日本の歴史25』講談社、2003）

植民地社会特論Ⅱ

担当教員 比屋根 照夫

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

戦後日本の政治・思想状況の中での「沖縄問題」の噴出は、日本の国家や社会のあり方を考える重要な指標であった。そこで、本講義では戦後日本に於ける沖縄論の思想史的、社会史的な系譜をたどり、アジアへの問題状況の波及を追跡し、植民地社会論的視点から分析することを試みる。

【授業の展開計画】

- | | |
|---------------|-----------|
| ① 柳田国男の思想 | 第1回～第2回 |
| ② 沖縄標準語論争の経緯 | 第3回～第4回 |
| ③ ゾルゲ事件と宮城與徳 | 第5回～第6回 |
| ④ 沖縄戦の特質 | 第7回 |
| ⑤ アメリカの沖縄統治 | 第8回 |
| ⑥ 戦後日本における沖縄像 | 第9回 |
| ⑦ 復帰思想の形成と展開 | 第10回 |
| ⑧ 戦後民主主義の思想像 | 第11回～第12回 |
| ⑨ 戦後沖縄の思想 | 第13回～第14回 |
| ⑩ 復帰後沖縄の総括 | 第15回 |

【履修上の注意事項】

配布資料を毎時間持参すること

【評価方法】

出席点
レポート提出

【テキスト】

【参考文献】

- ① 前期参考文献と同じ
- ② 比屋根照夫論文「戦後日本における沖縄論の思想的系譜」（『思想』所収．特集「戦後60年」．岩波書店．2005.12月号）

南島芸能特論 I

担当教員 波照間 永吉

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

組踊テキストを影印本（コピーを各自で作成）によって読んでいく。変体仮名や漢字のくずし字を読み解くという基礎的な力の涵養と組踊詞章の解釈ができるようになることを目指していく。今年も昨年に引き続き『宜野座村字松田（古知屋）の組踊集』から題材を選ぶが、前期では「黄金の羽釜・里川の子」を採り上げる。

【授業の展開計画】

第1・2講—組踊概説／組踊詞章の特質／組踊詞章の表記法について概説する。
第3講以降—テキストに従って変体仮名・漢字くずし字の読み解きについて訓練する。受講生一人ずつ発表担当をあらかじめ決め、各人が事前に学習してきた読みと語釈・文法等、詞章の解釈のために必要な事柄を発表していく。受講生は発表までに知識・情報を事前に収集し、研究史を視野に入れた各事項の解説が出来るよう準備すること。

【履修上の注意事項】

毎回の講義に向けて、上記の事前準備を欠かさないこと。

【評価方法】

各学期を通した講義時間における知識習得のレベルおよび期末のレポートで総合的に判断する。

【テキスト】

【参考文献】

くずし字解読の為の字典は必須。児玉幸多編『くずし字用例辞典』（普及版）（1981年 東京堂出版。5800円）
沖縄古語辞典編集委員会編『沖縄古語大辞典』（1995年・角川書店）
その他の参考図書については随時指示する。

南島芸能特論Ⅱ

担当教員 一波照間 永吉

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

組踊テキストを影印本（コピーを各自で作成）によって読んでいく。変体仮名や漢字のくずし字を読み解くという基礎的な力の涵養と組踊詞章の解釈ができるようになることを目指していく。今年も昨年に引き続き『宜野座村字松田（古知屋）の組踊集』から題材を選ぶが、前期では「黄金の羽釜・里川の子」を採り上げる。

【授業の展開計画】

テキストに従って変体仮名・漢字くずし字の読み解きについて訓練する。受講生一人ずつ発表担当をあらかじめ決め、各人が事前に学習してきた読みと語釈・文法等、詞章の解釈のために必要な事柄を発表していく。受講生は発表までに知識・情報を事前に収集し、研究史を視野に入れた各事項の解説が出来るよう準備すること。

【履修上の注意事項】

毎回の講義に向けて、上記の事前準備を欠かさないこと。

【評価方法】

各学期を通した講義時間における知識習得のレベルおよび期末のレポートで総合的に判断する。

【テキスト】

【参考文献】

くずし字解読の為の字典は必須。児玉幸多編『くずし字用例辞典』（普及版）（1981年 東京堂出版。5800円）
沖縄古語辞典編集委員会編『沖縄古語大辞典』（1995年・角川書店）
その他の参考図書については随時指示する。

南島言語文化特殊研究 I

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球の民俗芸能・宮廷芸能・沖縄芝居の関係性について、芸能史的社会的な視点から考える。また、民俗芸能と宮廷芸能については、琉球王国時代と近代化以後に分けて、琉球の国家社会やムラ社会における芸能の社会的役割について考える。

【授業の展開計画】

前期は、民俗芸能について、名護市屋部の八月踊り、多良間島の八月踊り、黒島の豊年祭りなどのビデオ鑑賞を行いつつ、それぞれのムラにおける民俗芸能の時代的・社会的役割について考えると共に沖縄社会における民俗芸能の可能性について意見を発表してもらう。

後期は、宮廷芸能の組踊・古典舞踊のビデオ鑑賞、及び沖縄芝居の歌劇・雑踊りのビデオ鑑賞を行いながら、それぞれの芸能の時代的・社会的役割について考えると共に、沖縄社会における宮廷芸能及び沖縄芝居の可能性について意見を発表してもらう。

【履修上の注意事項】

劇場やムラ祭りなどに足繁く通って、現在行われている民俗芸能、古典芸能、沖縄芝居を見ることが望ましい。

【評価方法】

レポート・出席・発表内容

【テキスト】

なし

【参考文献】

矢野輝雄著『沖縄芸能史話』

南島言語文化特殊研究 I

担当教員 西岡 敏

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

I（修士1年）琉球列島で話されている琉球語諸方言の研究に取り組み、その構造を明らかにする。琉球語研究が琉球文学の読解に結びつくことにも注意を払う。さらに、危機言語とされる琉球語の再生のために必要な試みについて考える。院生は各人のテーマに従い、修士論文の枠組を構築する。担当教員は、適宜、修論指導を行う。

なお、機会をみて、方言調査等のフィールドワークを行う予定である。

【授業の展開計画】

1. 琉球語諸方言の概説
2. 琉球語諸方言の研究史
3. 琉球語諸方言と琉球文学
4. 危機言語とその再活性化
5. 方言調査のフィールドワーク
6. フィールドワークのまとめ
7. 琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答
8. 修士論文についての発表および質疑応答

【履修上の注意事項】

発表の担当者は配布用のレジュメを準備し、授業で検討できるようにしておくこと。
授業では積極的に発言すること。

【評価方法】

研究レポートを提出する。
出席はもちろんのこと、発表者側の発表内容、聴き手側の質問・コメント等、各自が行う授業への積極的な関わり方を評価する。

【テキスト】

適宜、指示する。

【参考文献】

『沖縄語辞典』（国立国語研究所[編]、1963年、財務省印刷局）。
『沖縄古語大辞典』（沖縄古語大辞典編集委員会[編]、1995年、角川書店）
その他、適宜、指示する。

南島言語文化特殊研究Ⅱ

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

祭りにおける歌謡・説話・芸能などの口頭伝承と伝承者の心意との関わりについて考え、そのことと文学発生論との関係性について考察する。

【授業の展開計画】

前期は、竹富島の年間の農耕祭祀と呪詞・歌謡・芸能及び、祭りの由来伝承である説話について考える。具体的には、竹富島のユーンカイ・種子取祭・ムヌン・豊年祭の四つの祭りを取り上げて、それらの祭りが年間の農暦と関わって遂行されていることを明らかにし、それぞれの祭りと、呪詞・歌謡・芸能・由来伝承が密接につながっていることを考える。

後期は、石垣島川平のマユンガナシ、西表島古見・小浜島・新城島・石垣島宮良の赤マタ・黒マタ神などの来訪神と折口信夫のマレビト論について考える。

【履修上の注意事項】

文学及び芸能の発生論に関する論文を読んで授業に臨むこと

【評価方法】

レポート・出席・発表内容

【テキスト】

なし

【参考文献】

文学発生論関係の著書論文

南島言語文化特殊研究Ⅱ

担当教員 西岡 敏

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

Ⅱ（修士2年以上）院生は、修士論文の完成に向けて取り組む。担当教員は、適宜、修論指導を行う。なお、機会をみて、方言調査等のフィールドワークを行う予定である。

【授業の展開計画】

1. 琉球語諸方言の概説
2. 琉球語諸方言の研究史
3. 琉球語諸方言と琉球文学
4. 危機言語とその再活性化
5. 方言調査のフィールドワーク
6. フィールドワークのまとめ
7. 琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答
8. 修士論文についての発表および質疑応答

【履修上の注意事項】

発表の担当者は配布用のレジュメを準備し、授業で検討できるようにしておくこと。
授業では積極的に発言すること。

【評価方法】

研究レポートを提出する。
出席はもちろんのこと、発表者側の発表内容、聴き手側の質問・コメント等、各自が行う授業への積極的な関わり方を評価する。

【テキスト】

適宜、指示する。

【参考文献】

『沖縄語辞典』（国立国語研究所[編]、1963年、財務省印刷局）。
『沖縄古語大辞典』（沖縄古語大辞典編集委員会[編]、1995年、角川書店）
その他、適宜、指示する。

南島言語文化特論

担当教員 原田 信之

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、文献説話と民間説話をめぐる諸問題について考究することを目的とする。講義前半の題材としては、平安時代末期に編纂された我が国最大の説話集『今昔物語集』を使用し、その編纂意図や作品世界の検討をおとして、文献説話をめぐる諸問題について考察する。講義後半では、題材を南西諸島の文献説話と民間説話（九州・奄美文化圏、沖縄本島文化圏、宮古・八重山文化圏）に求め、具体的な事例を検討しながら考察を加える。文献伝承と口頭伝承をめぐる問題のみならず、説話素材における通時と共時の問題、大和文化圏と琉球文化圏をめぐる問題など、多角的に検討したい。

【授業の展開計画】

- 第1回：文献説話と民間説話
- 第2～3回：『今昔物語集』天竺部の考察
- 第4～5回：『今昔物語集』震旦部の考察
- 第6～7回：『今昔物語集』本朝仏法部の考察
- 第8～9回：『今昔物語集』本朝世俗部の考察
- 第10～11回：南西諸島の文献説話と民間説話（九州・奄美文化圏）
- 第12～13回：南西諸島の文献説話と民間説話（沖縄本島文化圏）
- 第14～15回：南西諸島の文献説話と民間説話（宮古・八重山文化圏）

【履修上の注意事項】

問題意識を持ち、意欲的に受講してください。

【評価方法】

講義出席、レポート提出によって評価する。
レポートの内容・枚数については、講義中に指示する。

【テキスト】

【参考文献】

講義資料を配付する。
参考文献：原田信之『今昔物語集南都成立と唯識学』（勉誠出版、2005年）

南島史学特論 I A

担当教員 田名 真之

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

『琉球王国評定所文書』中の「従大和下状」をテキストに、近世末期の首里王府と薩摩島津氏との諸交渉の実体を通して、其の関係性を考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	総論
2	史料講読 — 毎回範囲を割り当てて輪読、内容について検討する
3	史料講読 //
4	史料講読 //
5	史料講読 //
6	史料講読 //
7	史料講読 //
8	史料講読 //
9	史料講読 //
10	史料講読 //
11	史料講読 //
12	史料講読 //
13	史料講読 — 史料からテーマをみつけてレポート(小論)発表・検討
14	史料講読 — //
15	史料講読 — //
16	

【履修上の注意事項】

1. 古文書は活字のみならずオリジナルの草書も扱うので、「くずし字辞典」など用意すること。
2. 関連する漢文史料も扱う。
3. 前後期通して履修するのが望ましい。

【評価方法】

毎回の講読と報告、小論の発表内容で評価する。

【テキスト】

テキストの史料は、プリントして配布する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

南島史学特論 I B

担当教員 田名 真之

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期の「南島史学特論 1 A」を引き継ぎ、近世首里王府と薩摩の関係を『評定所文書』中の関連文書講読することを通して考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	総論
2	史料講読 — 一定範囲を割り当てて読みと内容を報告させる
3	史料講読 //
4	史料講読 //
5	史料講読 //
6	史料講読 //
7	史料講読 //
8	史料講読 //
9	史料講読 //
10	史料講読 //
11	史料講読 //
12	史料講読 //
13	史料講読 — 史料中から題材を探してレポート(小論)報告 討論
14	史料講読 //
15	史料講読 //
16	

【履修上の注意事項】

1. 古文書は活字(楷書)のみならず、オリジナルの草書体も扱うので、『くずし字辞典』など準備すること。
2. 関連する漢文史料も扱う。

【評価方法】

毎回の読みと理解、小論の発表などで評価する。

【テキスト】

史料をプリントして配布する。

【参考文献】

授業で適宜紹介する。

南島史学特論ⅡA

担当教員 西里 喜行

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義のテーマは「琉球・沖縄史の転換期の研究——琉球処分の再検討——」である。従来、「琉球処分」は近代日本の領土問題や民俗統一の問題として論ぜられ、琉球・沖縄の「歴史的個性（主体性）」を軽視あるいは無視して、「所属」問題として位置づけられて来た傾向が強い。本講義では、19世紀後半の東アジア国際秩序の再編成期において、琉球・沖縄が主体的にどのような選択肢を追求したのかという視点から、「琉球処分」の諸側面を再検討したい。

【授業の展開計画】

- ①序論——「琉球処分論」の視点と論点 [第1回]
- ②近世東アジアの国際秩序と琉球王国 [第2回]
- ③アヘン戦争後の東アジア国際秩序と琉球問題 [第3～4回]
- ④明治政府の成立と対外関係の再編成 [第5～6回]
- ⑤琉球の「内国」化をめぐる日琉抗争 [第7～8回]
- ⑥廃琉置県の諸相と内外の論調 [第9～10回]
- ⑦琉球問題をめぐる日清交渉とその周辺 [第11～13回]
- ⑧尖閣諸島の領有権問題 [第14回]
- ⑨総括——琉球・沖縄の選択肢と「自己決定権」 [第15回]

【履修上の注意事項】

琉球・沖縄史の概説書を一読しておくことが望ましい。

【評価方法】

- ①講義中の質疑応答、②史料の読解力、③受講態度、その他

【テキスト】

【参考文献】

- ①安里進他『沖縄県の歴史』（山川出版社、2004年）
- ②豊見山和行・高良倉吉編『琉球・沖縄と海上の道』（吉川弘文館、2005年）
- ③西里喜行著『清末琉日関係史の研究』（京都大学学術出版会、2005年）

南島史学特論ⅡB

担当教員 一來間 泰男

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄の近代史の要点を講義する。
南島文化に関心のある者に対して、歴史の側から思考材料を提供する。
そのことを通して、沖縄社会の特質を学ぶ。

【授業の展開計画】

- 第1回 琉球処分
- 第2回 「旧慣存続政策」
- 第3回 沖縄県土地整理事業
- 第4回 琉球近世の租税制度と「人头税」廃止運動
- 第5回 杣山処分と「自由民権運動」
- 第6回 1920年恐慌
- 第7回 糖業の歴史
- 第8回 ウェーキ＝シカマ関係
- 第8回 移民と出稼ぎ
- 第9回 沖縄救済論議と沖縄県振興計画
- 第10回 昭和10年前後の経済断面図
- 第11回 準戦時体制
- 第12回 戦時体制
- 第13回 沖縄戦と経済
- 第14回 「沖縄近代」の総括
- 第15回 戦後史への展望

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

南島社会特論 I

担当教員 石原 昌家

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球処分前後から沖縄社会の特質について、軍事上、日本国家からの位置づけや沖縄の伝統的な平和思想について、まず、資料にもとづきながら分析していく。

さらに昭和戦前期までの日本軍部による沖縄県民観や皇民化教育とともに軍事化される沖縄社会の変容という観点で論じていく。

【授業の展開計画】

- 1) 伝統的平和思想について①
- 2) 伝統的平和思想について②
- 3) 伝統的平和思想について③
- 4) 沖縄社会の軍事的位置①
- 5) 沖縄社会の軍事的位置②
- 6) 沖縄社会の軍事的位置③
- 7) 沖縄での皇民化教育①
- 8) 沖縄での皇民化教育②
- 9) 沖縄での皇民化教育③
- 10) 軍部の沖縄県民観①
- 11) 軍部の沖縄県民観②
- 12) 軍部の沖縄県民観③
- 13) 戦時体制の沖縄社会①
- 14) 戦時体制の沖縄社会②
- 15) 戦時体制の沖縄社会③
- 16) まとめ

【履修上の注意事項】

配布資料を毎時間持参すること

【評価方法】

出席点
レポート提出

【テキスト】

【参考文献】

『具志川市史』第五巻、『浦添市史』第五巻、『資料日本現代史』8

南島社会特論Ⅱ

担当教員 石原 昌家

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

戦中・戦後の歴史体験と歴史認識という視点で沖縄社会をまず論じていく。戦中・戦後の歴史体験を、類型化して、それぞれの歴史認識を踏まえながら具体的にみていく。さらに、戦後沖縄社会を「密貿易社会」、「援護法社会」、「郷友会社会」、「基地オキナワ」と位置づけ、それぞれの社会的特質を具体的を例を挙げながら剔出していく。

【授業の展開計画】

- 1) 戦中の歴史体験①
- 2) 戦中の歴史体験②
- 3) 戦中の歴史体験③
- 4) 戦後の歴史体験①
- 5) 戦後の歴史体験②
- 6) 戦後の歴史体験③
- 7) 「密貿易社会」①
- 8) 「密貿易社会」②
- 9) 「援護法社会」①
- 10) 「援護法社会」②
- 11) 「郷友会社会」①
- 12) 「郷友会社会」②
- 13) 「基地オキナワ」①
- 14) 「基地オキナワ」②
- 15) 「基地オキナワ」③
- 16) まとめ

【履修上の注意事項】

配布資料を毎時間持参すること

【評価方法】

出席点
レポート提出

【テキスト】

【参考文献】

資料配布

南島社会文化特殊研究 I

担当教員 鳥山 淳

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

修士論文執筆に向けた準備段階として、学術論文を作成するための基礎的な作業方法を身に付ける。各受講者の研究テーマに沿って研究計画を作成し、具体的な調査および資料収集を進める。

【授業の展開計画】

- ①研究計画書を作成し、1年間の作業スケジュールを確認する。
- ②テーマに関連する論文のリストアップし、その内容を把握する。
- ③テーマに適った調査および資料収集方法を考察する。
- ④夏期休暇中の具体的な研究計画を作成する。
- ⑤夏期休暇中の研究成果をまとめる。
- ⑥研究の進捗状況と課題を把握し、論文構想の具体化を図る。
- ⑦修士論文の章立て案を作成する。

【履修上の注意事項】

各自の研究テーマについて進捗状況の報告を随時求める。

【評価方法】

報告内容および議論への参加によって評価する。

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じて指示する。

南島社会文化特殊研究Ⅱ

担当教員 鳥山 淳

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

前年度の研究成果を確認しながら修士論文の執筆に向けた取り組みを進め、報告を重ねながら論文として完成させる。

【授業の展開計画】

- ①前年度の取り組みをふまえて論文提出までの作業計画を作成する。
- ②中間報告に向けて論文の構成を確定させる。
- ③中間報告での指摘をふまえて細部の見直しを行い、夏期休暇中の課題を確認する。
- ④夏期休暇中の成果をまとめ、論文執筆を進める。
- ⑤指導教員のチェックを受けながら論文の完成度を高める。
- ⑥下書き原稿を提出し、本提出に向けて手直しを行う。
- ⑦本提出後、最終試験と発表会の準備を行う。

【履修上の注意事項】

各自の論文作成状況について、随時報告を求める。

【評価方法】

報告内容および提出論文によって評価する。

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じて指示する。

南島先史文化特殊研究 I

担当教員 江上 幹幸

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

修士論文作成の基礎的な知識を蓄えるために、専門的な基礎論文以外にも周辺諸科学の論文も講読する。毎回、講読して論文内容を発表しおよび討議にあてる。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス

第2週 テーマ設定

第3週～16週 テーマに関連する基礎的論文を講読し、発表を行う。

【履修上の注意事項】

あたえられた課題を十分に研究すること

【評価方法】

授業での発表

【テキスト】

授業で随時指示

【参考文献】

授業で随時指示

南島先史文化特殊研究Ⅱ

担当教員 江上 幹幸

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

修士論文にむけての直接的な指導を行う。修士論文の作成方法を具体的に教授する。修士論文の概要から先行研究の分析、蒐集した調査資料の分析を行う。論旨にそった項目を作成し、関連する論文を分析し、修士論文作成へと導く。

【授業の展開計画】

前期は科学的論文の書き方を教授し、先行研究、調査資料の分析方法などを発表形式で行う。後期は修士論文の内容について分析し、細部にわたって指示する。

【履修上の注意事項】

あたえられた課題を十分に研究すること

【評価方法】

授業での発表

【テキスト】

直接指示する。

【参考文献】

直接指示する。

南島先史文化特論 I

担当教員 江上 幹幸

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球列島に展開した先史文化の文化要素を個々に取り上げ、台湾、東南アジア、オセアニアを視野に入れ、民族学的要素を取り入れながら概説する。民族考古学とはどのような学問かということに焦点をあてながら、講義をすすめていく。

【授業の展開計画】

基本的に講義形式で授業を行うが、随時関連する論文を講読し、ディスカッションを通して、巨石記念物とはなにかを分析する。

第1週 ガイダンス

第2週～第4週 民族考古学とはなにか。

第5週～第10週 東南アジア島嶼部での具体的な調査事例。

第11週～第14週 オセアニアでの具体的な調査事例。

第15週～第16週 総括

【履修上の注意事項】

講義で指示した論文、書籍を各自読むこと。

【評価方法】

レポートを提出し、授業での討論などとともに総合的に評価する。

【テキスト】

随時、講義時に提示する。

【参考文献】

南島先史文化特論Ⅱ

担当教員 江上 幹幸

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

琉球列島に展開した先史文化の文化要素を個々に取り上げ、台湾、東南アジア、オセアニアを視野に入れ、民族的要素を取り入れながら巨石記念物を概説する。

【授業の展開計画】

基本的に講義形式で授業を行うが、随時関連する論文を講読し、ディスカッションを通して、巨石記念物とはなにかを分析する。

第1週 ガイダンス

第2週～第4週 巨石記念物となにか

第5週～第10週 東南アジア島嶼部の巨石記念物

第11週～第14週 オセアニアの巨石記念物

第15週～第16週 総括

【履修上の注意事項】

講義で指示した論文、書籍を各自読むこと。

【評価方法】

レポートを提出し、授業での討論などとともに総合的に評価する。

【テキスト】

随時、講義時に提示する。

【参考文献】

南島地理学特論 I

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人文地理学の基礎的な調査方法について学習し、実際の島嶼地域におけるフィールド実習を実施する中で、実践的な調査の企画・設計、調査結果の分析、集計を経験し、自ら調査できる技術習得を目指す。今年度の実習地域としては、次年度に引き続き、沖縄県読谷村を研究対象地域としてとりあげ、そこにおける人々の生業と社会組織、地域経済の振興についての地域調査を予定している。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	人文地理学調査入門 地理学調査とは
2	調査倫理と調査企画・設計(1)
3	調査企画・設計(2)、仮設構成
4	調査票の作成(1)
5	調査票の作成(2)
6	読谷村の地域調査(1) サンプルング、フィールドの選定の実際
7	読谷村の地域調査(2) 実査(1)
8	読谷村の地域調査(2) 実査(2)
9	地域調査結果データの整理(1) (エディティング、コーディング)
10	地域調査結果データの整理(2) (データクリーニング、フィールドノート作成、コードブック作成)
11	地域調査結果データの整理(3) (量的分析とグラフ作成)
12	地域調査結果データの整理と質的な分析
13	報告書作成と地域調査報告会準備 (1)
14	報告書作成と地域調査報告会準備 (2)
15	地域調査報告会と全体のまとめ
16	

【履修上の注意事項】

提出物を期限までに提出すること。

【評価方法】

提出物(論文・レポートなど)
と出席状況で総合的に判断する。

【テキスト】

浮田典良『ジオ・パル21 地理学便利帳』海青社、2001年。
後藤真太郎・谷 謙二他『新版 MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座
—フリーソフトでここまで地図化できる—』古今書院 2007年。

【参考文献】

授業の中でその都度紹介する。

南島地理学特論Ⅱ

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

南島地理学Ⅱでは、南島地理学Ⅰを基本として、地理情報システムのしくみとその操作方法について学習する。最終的には、各種分布図が独力で作業できるようになることを目標としている。使用ソフトは「MANDARA」、「カシミール」、「地図太郎」などです。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地理情報システムとは①カシミール活用法
2	地理情報システムとは②カシミール活用法
3	MANDARAの特色と地図データ-さまざまな地図の紹介-
4	MANDARAで地図をつくろう①階級区分図をつくる
5	MANDARAで地図をつくろう②階級区分を考える
6	コンビニエンスストアの分布図-競合店の多いコンビニを探そう-
7	東京都の地価分布図の作成-国土数値情報の地価公示データの利用-
8	東京都八王子市の土地利用の変化-国土数値情報の土地利用メッシュデータの利用-
9	水質調査マップの作成
10	ヒートアイランドに及ぼす環境パラメータの評価
11	測地系と座標変換について
12	緯度経度の取得方法、政府統計の活用窓口の利用
13	白地図画像の地図データ化、地図太郎の利用①
14	地図太郎の利用②
15	地図太郎の利用③
16	まとめ

【履修上の注意事項】

パソコンによる積み上げ式学習なので、毎回出席することが重要。無料のGISソフト「MANDARA」、「カシミール」の各自パソコンへのインストールと「地図太郎（基礎的GISソフト）」を時々平行して使うので、購入してもらおう予定です（3000円）。授業は学内のパソコン室を利用する予定です。

【評価方法】

授業の出席率、課題の提出状況によって総合的に判断する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS入門、谷謙二、古今書院
地図太郎、カシミールソフトの各操作マニュアル

南島文学特論 I A

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

南島歌謡は、長詞系歌謡と短詞系歌謡に大別される。しかも、両者の歌謡は、神口・願い口などの長い詞章の呪詞や短い詞章呪い言との関係性において成立した可能性が高く、その問題は、南島文学の発生論とも深く関わっている。本講座では、次の視点から南島歌謡の発生について考える。

- ①神口・願い口などの長い詞章の呪詞と長詞系歌謡の関係性
- ②短い詞章の呪言と短詞系歌謡の関係性

【授業の展開計画】

南島の長詞系歌謡と短詞系歌謡の問題は、小川学夫の奄美歌謡発生論及び外間守善の南島文学発生論において論じられている。

本講座では、それら両先学の論文を中心に輪番制で読み進めてゆくが、小川・外間の発生論だけではなく、必要に応じて、折口信夫・谷川健一などの文学発生論について読み進める。

予め担当者を決めて読んでもらうが、担当者は事前に当該論文の概要を他の受講生がわかりやすいように整理しておくこと。

【履修上の注意事項】

担当者は、論文の概要をコピーして受講生に配布すること。

【評価方法】

レポート・出席・発表内容

【テキスト】

なし

【参考文献】

小川学夫著『奄美民謡誌』、外間守善著『南島文学論』、折口信夫著「国文学の発生」（『折口信夫全集第一巻』）、谷川健一著『南島文学発生論』、狩俣恵一著『南島歌謡の研究』

南島文学特論 I B

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球芸能は、宮廷芸能と民俗芸能（村踊り）に大別されるが、相互に影響関係があるので、厳密に区別されないところがある。例えば、村踊りにも古典舞踊や組踊などが演じられており、また宮廷芸能には島々村々の歌謡が使われているからである。したがって、宮廷芸能と民俗芸能の違いは、その演じられる場によって規定されていると言っても過言ではない。以上のことを踏まえた上で、本講座では、琉球芸能について考える。

【授業の展開計画】

- ① 芸能の発生論について
- ② 芸能と「場」
- ③ 芸能と音楽
- ④ 式楽と商業演劇
- ⑤ 琉球芸能と三線及び工工四
- ⑥ 式楽としての琉球芸能
- ⑦ 商業演劇としての沖縄芝居

【履修上の注意事項】

担当者は、論文の概要をコピーして受講生に配布すること。

【評価方法】

レポート・出席・発表内容

【テキスト】

なし

【参考文献】

矢野輝雄著『組踊を聴く』、當間一郎著『組踊研究』、折口信夫著「国文学の発生」（『折口信夫全集第一巻』）、谷川健一著『南島文学発生論』、狩俣恵一著『芸能の原風景』

南島文学特論ⅡA

担当教員 西岡 敏

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球語圏の会話や民話などに出てくる単語を分析・整理し、琉球語の表現について考察してゆく。琉球語諸方言が日常的に使用されなくなり、それら言葉の記録と再活性化が急務となっている。この授業では、これまでに記録されたテキストを言語学的に分析して、琉球語に対する知識を深めるとともに、実際に会話や民話の語りなどを再現して、琉球語の再活性化に向けた糸口とする。また、会話や民話などに出てくる単語を索引化することも視野に入れる。

【授業の展開計画】

適当な会話集や民話集を選ぶ。各担当で方言テキストを文節ないしは単語に区切ってエクセルの表に入れ、単語表を作成する。活用語には活用形を入れる欄を設けるなど、表には工夫を施す。これらの作業は各担当が授業を受けるまでに準備しておく。実際の授業では、各担当ごとに発表を行い、語の区切り方が正しいか、文法的分析が正しいかなどをチェックする。各担当は、授業で検討した事項を復習し、単語表を修正する。以上の過程を繰り返し、方言テキストの索引を完成させる。文法解析、意味分析が一通り済み、全体の流れを把握した段階で、会話や民話の語りなどを再現し、ビデオ撮影により記録する。記録したものには字幕を付ける。

【履修上の注意事項】

授業での発表者はレジメを用意し、毎回の授業で検討できるようにしておくこと。

【評価方法】

- ①出席はもちろんのこと、発表者側の発表内容、聴き手側の質問・コメント等、各自が行なう授業への積極的な関わり方を評価する。
- ②学期末に索引（データ）、方言による会話や語り（映像資料・字幕付）を提出する。

【テキスト】

適宜指示する

【参考文献】

『沖縄語辞典』（国立国語研究所[編]、1963年、財務省印刷局）。そのほか、授業で適宜指示する。

南島文学特論ⅡB

担当教員 西岡 敏

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

民話を題材にした琉球方言によるデジタル紙芝居に取り組む。最近では、パソコンのレベルでも、簡単な映像を作ることが可能になっている。琉球方言による音声とデジタル紙芝居の画像に字幕を付け、作品に仕上げたDVD等に焼き付ける。各自が民話の中のキャストとなり、琉球方言で演じる。琉球語の世界に近づき、琉球語で表現する行為を考えてゆく。

【授業の展開計画】

- ①ある民話の共通語による台本を用意する。その民話が語られた地域の琉球方言に翻訳する（流暢な方言話者をお願いする）。翻訳された琉球方言の台本を分析し、ことばとして十分に理解する。
- ②方言台本の読み合わせを行う（発音練習）。方言台本の配役を決める。デジタル紙芝居の構成・割付を考える。
- ③スタジオで録音を行う。民話シーンの絵を描き、パソコンへ取り込む。
- ④パソコン上で、方言による録音と民話シーンの絵をマッチングさせる。
- ⑤作品完成。試写検討会を行なう。修正版を作成し、提出・配布する。

【履修上の注意事項】

前期「南島文学特論ⅡB」と同じ。

【評価方法】

前期「南島文学特論ⅡB」と同じ。完成した作品を提出する。

【テキスト】

適宜指示する

【参考文献】

適宜指示する

南島方言学特論 I

担当教員 野原 三義

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

方言学のもっとも根本となる音韻体系を目指さなければならない。そのためには音声学を勉強すべきである。沖縄中南部方言で /ʔi' N/ [ʔiŋ] <犬>. /' i' N/ [jiŋ] <縁>. /ʔutu/ [ʔutu] <音>. /' utu/ [wutu] <夫>. /ʔNni/ [ʔnni] <稲>. /' Nni/ [nni] <胸>などと対立する語がある。アクセントも那覇方言で [ʔatʃisaŋ] <暑い>. [ʔatʃisaŋ] <厚い>. [ʔi:ŋ] <射る>. [ʔi:ŋ] <入る>と区別する。琉球方言圏の宮古、八重山、奄美の方言にも類することが多いから、しっかり聞き分けて正確に表記できるようにしなければならない。音声の実態を把握することが、肝要。

【授業の展開計画】

基礎語彙などで特定方言の調査をおこなう。
 方言調査とはインフォーマント（話者）からの情報収集といってよい。実際には、いろいろな難しいことが惹起する。良い場合もあるが、悪いときもあるから、それを乗り越えなければならない。
 収集した諸資料から実態を機能し、音韻体系を構築しなければならない。アクセントについても同様である。
 小手先をもてあそぶのではなく、模倣に執着せず、音声学、音韻論についての基礎的な、あるいは、読むべき文献を熟読しなければならない。

【履修上の注意事項】

諸資料、文献に目を通す。
 出席を重視するから、出席すべきである。

【評価方法】

出席、レポート、講義との関わりかた。

【テキスト】

【参考文献】

『音声学』服部四郎（岩波書店）。『言語学の方法』服部四郎（岩波書店）。
 『日本語音韻の研究』金田一春彦（東京堂出版）。
 『琉球方言音韻の研究』中本正智（法政大学出版局）。

南島方言学特論Ⅱ

担当教員 野原 三義

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

文法、語彙などの部門をみていくことになる。動詞、形容詞、助動詞など活用のある語をみていく。形態面においても共通語とは異なるなりたちだから、それにしぼられてはいけない。沖縄諸方言には、元の形であるグループと「居り」などの融合したものなどがあって、複雑な活用をする。西日本に共通の進行態、結果態を区別することもある。係助詞と呼応する活用形もみられる。語彙研究は各門目別の研究がある。共通語と比較すれば、客観的な思考を表現する点で違いがみられるだろう。諸部門を比較することによって、通時的にも展開するし、言語地理学に発展するし、分布に言及することになっていくだろう。

【授業の展開計画】

授業のねらいで触れたことの特定の細目について展開していくことになる。那覇方言の格助詞 *ga* は共通語の「が」に似ている。用法をみてるに、主格用法は似ているが所有格の場合は似ていない。格助詞 *nu* も共通語の「ぬ」に似ているが、連用修飾の用法はない。経由の *na:ri:* は独特である。係助詞の *ga*, *ru* には特定の活用形と呼応したり、陳述と関係したりする。格助詞 *ga* をみつめていると格助詞の用法もあり、同時に係助詞の機能も否定できないこともある。いろいろな部門の展開は、取り組む人の腕次第である。しっかりした調査と先行文献を勉強して欲しい。

【履修上の注意事項】

諸資料、文献に目を通す。
出席を重視するから、出席すべきである。

【評価方法】

出席、レポート、講義との関わりかた。

【テキスト】

【参考文献】

『琉球方言の研究』仲宗根政善（新泉社）。『琉球語彙史の研究』中本正智（三一書房）。『新編琉球方言助詞の研究』野原三義（沖縄学研究所）。『沖縄語辞典』国立国語研究所（大蔵省印刷所）。『沖縄今帰仁方言辞典』仲宗根政善（角川書店）。『沖縄語辞典—那覇方言を中心に—』（研究社）内間直仁、野原三義。

南島民俗宗教特論 I

担当教員 稲福 みき子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義2

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

南島の民俗研究のなかで、民俗宗教に関する研究の蓄積はきわめて豊富である。伊波普猷・柳田國男・折口信夫をはじめとする先学の成果を通時的に追いつつ、南島民俗宗教の概要の把握に努める。先学の多様な研究の成果から各自の課題設定の手がかりや方法の検討に資する。

【授業の展開計画】

1～3週で、沖縄民俗研究史の概要を講義したうえで、受講生の関心に沿いつつ、各自取り上げる研究論文を決定する。

3週以降は分担した課題について発表、討論を行う。発表者は事前に課題論文を詳細に読み込み、レジュメを作成して参加者全員に配布する。発表内容について討論しながら進める。

【履修上の注意事項】

あらかじめ配布される資料、論文を丹念に読んで参加すること。

【評価方法】

発表への取り組みと内容。

【テキスト】

【参考文献】

初回の講義で研究史を紹介し、その上で課題文献を提示する。

南島民俗宗教特論Ⅱ

担当教員 稲福 みき子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

南島の民俗研究のなかで、民俗宗教に関する研究の蓄積は極めて豊富である。このⅡでは、近年の研究動向を踏まえ、祭祀儀礼や祭祀組織、世界観、シャーマニズムなどのをテーマに取り上げ、周辺地域を視野に入れた比較考察をめざす。

【授業の展開計画】

1～2週で、近年の沖縄民俗研究動向を概観したうえで、受講生の関心に沿いつつ、各自取り上げる課題論文を決定する。

3週以降は分担した課題について発表、討論を行う。発表者は、事前に課題論文を詳細に読み込み、レジュメを作成して参加者全員に配布する。発表内容について討論しながら進める。

【履修上の注意事項】

あらかじめ配布される資料、論文を丹念に読んで参加すること。

【評価方法】

発表への取り組みと内容。

【テキスト】

【参考文献】

初回の講義で近年の研究概要を示し、受講者の関心に沿いつつ課題文献を提示する。

南島民俗特論 I

担当教員 赤嶺 政信

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄は柳田国男や折口信夫以来の日本民俗学において、特異な位置を占めてきた地域である。それを踏まえ、日本民俗学の学史における沖縄の位置付けに関して再考しつつ、民間信仰、村落の祭祀組織、「家」や門中組織に関しての通時的視点に立脚した把握等、沖縄の民俗文化をめぐる諸課題について把握できるようにする。その際、近世における国家体制が、民俗事象に及ぼした影響について留意することの重要性についても、受講生の決意を喚起したい。

【授業の展開計画】

1～2週で、日本民族学の学史における沖縄（南島）の位置づけについて討議し、受講生の関心に沿いつつ、受講生各自が取り上げて発表すべき研究論文を決定する。3週以降は、分担した課題について毎回1名が発表を行い、それを受けて、全員で討論を行なう。発表者は、事前に課題論文を読み込んだうえで、討論が深まるような工夫をしたレジュメを作成して、それを全員に配布する。

【履修上の注意事項】

発表者以外の受講生も、あらかじめ配布される論文テキストを丹念に読み込んで、授業に参加すること。

【評価方法】

出席状況および発表への取り組みとその内容に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

授業のなかで、適宜紹介していく。

南島民俗特論Ⅱ

担当教員 赤嶺 政信

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄は、柳田国男や折口信夫以来の日本民俗学において、特異な位置を占めてきた地域である。それを踏まえ、日本民俗学の学史における沖縄の位置付けに関して再考しつつ、民間信仰、村落の祭祀組織、「家」や門中組織に関しての通時的視点に立脚した把握等、沖縄の民俗文化をめぐる諸課題について把握できるようにする。その際、近世における国家体制が、民俗事象に及ぼした影響について留意することの重要性についても、受講生の注意を喚起したい。

【授業の展開計画】

1～2週で、日本民俗学の学史における沖縄（南島）の位置づけについて講義し、受講生の関心に沿いつつ、受講生各自が取り上げて発表すべき研究論文を決定する。3週以降は、分担した課題について毎回1名が発表を行い、それを受けて、全員で討論を行なう。発表者は、事前に課題論文を読み込んだうえで、討論が深まるような工夫をしたレジュメを作成して、それを全員に配布する。

【履修上の注意事項】

発表者以外の受講生も、あらかじめ配付される論文テキストを丹念に読み込んで、授業に参加すること。

【評価方法】

出席状況および発表への取り組みとその内容によって評価する。

【テキスト】

【参考文献】

授業のなかで、適宜紹介する。

南島民俗文化特殊研究 I

担当教員 稲福 みき子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

南島民俗の研究史を踏まえて、社会組織と民俗宗教に関する主要な論文を取り上げ、各自が分担した課題について発表、討論する。発表担当者は、レジュメを作成して参加者全員に配布し、議論を進める。その検討を通じて、問題意識を深め、院生各自の研究主題と方法の確立をめざす。

【授業の展開計画】

1～4週は、沖縄民俗研究史の概観を行う。具体的には馬淵論文を輪読しつつ、各自の問題意識を明確にすることをめざす。

5～10週は、受講生の関心をもつテーマに関する先行研究論文および基本文献を課題に発表、討論を行い、課題設定のための文献資料の読解力を培う。

10～15週は、研究テーマにそってどのような調査を行うのか、具体的な調査をイメージしつつ、課題設定のための先行文献研究を深めるとともに、夏期休暇中の調査計画を練る。

15～20週は、夏期休暇中の調査報告を踏まえ、研究テーマに関する論点を深め、さらに先行研究を読み込む。

20～25週は、修士論文の構想をより明確にするため、論点を絞り込んだ検討を重ねる。

25～31週は、修士論文概要を作成する。

【履修上の注意事項】

受講生の真摯な研究態度と調査への取り組みが基本条件である。

【評価方法】

修士論文作成に向けた取り組みのありようで評価する。

【テキスト】

【参考文献】

適宜、紹介する。

南島民俗文化特殊研究Ⅱ

担当教員 稲福 みき子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

修士論文作成に向けた指導を中心とする。前年度書いた修士論文概要にそって、各自のテーマに関する先行文献のさらなる検討、調査内容および資料整理とその分析、提示、および論旨の展開等について検討し、指導を行う。

。

【授業の展開計画】

前期は、修士論文概要を踏まえて、それぞれの調査内容の更なる充実をめざす。資料の収集、分析、論点の絞り込み等を進め、中間発表を行う。

後期は、具体的な調査データに基づいて修士論文の構成を検討しつつ、資料提示、論旨の展開等、具体的に指導する。

【履修上の注意事項】

修士論文作成に向ける真摯な取り組みと姿勢が基本条件である。

【評価方法】

修士論文

【テキスト】

【参考文献】

適宜、紹介する。

南島歴史文化特殊研究Ⅱ

担当教員 田名 真之

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

修士論文作成のため、進捗状況を確認しつつ、指導助言する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	修論作成までのスケジュール作成	17	修論下書き点検・調整
2	修論内容について調整	18	同 上
3	同 上	19	同 上
4	先行研究の整理 — 報告・検討	20	同 上
5	目次について調整	21	同 上
6	修論中間発表に向けて調整	22	同 上
7	同 上	23	同 上
8	同 上	24	同 上
9	同 上	25	同 上
10	同 上	26	同 上
11	同 上	27	修論原稿点検・確認
12	同 上	28	同 上
13	修論下書き点検・調整	29	同 上
14	同 上	30	同 上 (修論提出)
15	同 上	31	
16	同 上		

【履修上の注意事項】

修論作成の指導、助言であり、対象と成るM2の院生は、毎週自らの下書き原稿を書き進め、議論の素材を提供する必要がある。受け身ではことは進まないの、ともあれ原稿を書く努力をすること。

【評価方法】

修士論文の完成度による。

【テキスト】

【参考文献】

日本近現代文学特論 I A

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- (1) 文献探索の基礎を学ぶ。
- (2) 日本／沖縄の作家のテキストを読み、沖縄文学の可能性について考える。

【授業の展開計画】

- ・発表、討議。
主として沖縄の近現代作家のテキストを取り上げる予定である。

【履修上の注意事項】

毎時間、発表担当者を設ける。

【評価方法】

発表および文献探索法の基礎がどの程度身についているかによって評価する。

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じて指示する。

日本近現代文学特論 I B

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本／沖縄の作家のテキストを読み、沖縄文学の可能性について考える。

【授業の展開計画】

- ・発表、討議。
主として沖縄の近現代作家のテキストを取り上げる予定である。

【履修上の注意事項】

毎時間、発表担当者を設ける。

【評価方法】

発表および文献探索法の基礎がどの程度身についているかによって評価する。

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じて指示する。

日本近現代文学特論ⅡA

担当教員 大野 隆之

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近代沖縄文学は戦前は言語的困難と貧困、戦後は米軍の占領下という他の地域が経験しなかった、特異な状況下で発展してきた。本講義では「文学不毛の地」といわれてきた沖縄に、芥川賞をもたらせた大城立裕を中心に、占領下沖縄の文学について、ポストコロニアル、オリエンタリズムなど、新たな視点を取り入れ考えていきたい。

ⅡAでは主に戦前の作品を取り上げる。

【授業の展開計画】

『沖縄文学選』に収録された作品を、編年体形式に読んでいく。
一方的な講義ではなく、毎時間受講生の意見を取り上げ検討していく。

【履修上の注意事項】

受講者全員に毎回意見を述べさせるので、準備をしてくること。
近代専攻の院生には、毎回A4一枚程度のショートレポートを提出させる。

【評価方法】

各時間の発表、期末のレポート

【テキスト】

【参考文献】

『沖縄文学選』 勉誠社、必携。
大城立裕全集

日本近現代文学特論ⅡB

担当教員 大野 隆之

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近代沖縄文学は戦前は言語的困難と貧困、戦後は米軍の占領下という他の地域が経験しなかった、特異な状況下で発展してきた。本講義では「文学不毛の地」といわれてきた沖縄に、芥川賞をもたらせた大城立裕を中心に、占領下沖縄の文学について、ポストコロニアル、オリエンタリズムなど、新たな視点を取り入れ考えていきたい。

【授業の展開計画】

『沖縄文学選』に収録された作品を、編年体形式に読んでいく。
一方的な講義ではなく、毎時間受講生の意見を取り上げ検討していく。

【履修上の注意事項】

受講者全員に毎回意見を述べさせるので、準備をしてくること。
近代専攻の院生には、毎回A4一枚程度のショートレポートを提出させる。

【評価方法】

各時間の発表、期末のレポート

【テキスト】

【参考文献】

『沖縄文学選』 勉誠社、必携。
大城立裕全集

日本語文化特殊研究 I

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

学術論文を作成するための基本を学ぶ。周辺の資料を探索し、発表し、テーマの決定を模索する。学年末の紀要論文への寄稿を目標とする。

【授業の展開計画】

- ① 1年を通しての研究計画の作成。
- ② 調査、文献・資料収集の方法
- ③ 参考文献、研究史の作成。
- ④ 方法、視点を検討し、小テーマを設定する。
- ⑤ 夏期合宿で中間発表会を行い、テーマの方向性を決定する。
- ⑥ 多方面からの調査・検討を繰り返し、発表。
- ⑥ 12月の紀要論文に向けテーマを設定し、執筆、手直し、推敲を重ねる。
- ⑦ 論文合評会の反省点を踏まえて検討し、修士論文のテーマと概要を作成する（2月末提出）。

【履修上の注意事項】

基本的に毎回発表を行い、進度を報告する。

【評価方法】

- ① 毎回個々に出した課題に取り組んでいるか。
- ② 中間発表、年度末の論文（ノート）

【テキスト】

【参考文献】

その都度指示する。

日本語文化特殊研究 I

担当教員 葛綿 正一

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

学術論文を作成するための基礎を学ぶ。文献探索、調査等の基礎研究を通じてテーマおよび方法を確定し、修士論文までの具体的な研究計画を作成する。紀要への投稿を目標とし、修士論文の一部となる論文を執筆する。

【授業の展開計画】

- ①年間研究計画の作成（4月）
- ②調査、資料収集の方法
- ③先行文献目録、研究史の作成
- ④方法、視点の検討
- ⑤夏期合宿で研究成果の中間発表を行う
- ⑥紀要論文の執筆、投稿（12月下旬提出）
- ⑦修士論文の概要を作成する（2月末）

【履修上の注意事項】

各自の研究計画に沿って毎回発表を行い、進度を報告する。

【評価方法】

- ①研究計画に沿って着実に課題に取り組んでいるか。
- ②中間発表および紀要論文（研究ノート）等。

【テキスト】

適宜、指示する

【参考文献】

適宜、指示する

日本語文化特殊研究Ⅱ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

各自が設定したテーマに沿って、引き続き、調査、研究を行う。年間計画を立て、構想表を作成し、執筆、発表、検討を重ね、学位論文を完成する。

【授業の展開計画】

- ① 年間研究計画の作成。
- ② 学位論文の構想表の作成と検討。
- ③ 補足調査を行いながら、7月末の修士論文中間発表会に向けてのテーマを設定し、執筆する。
- ④ 添付資料のあげ方、注記のつけ方、参考文献の選定に注意しながら、発表レジュメを完成する。
- ⑤ 中間発表の反省点を踏まえ、夏休み明けまでに、学术论文の大まかな下書きをする。
- ⑥ 下書きを元に、論文構成の補足、修正を行う。
- ⑦ 1章ごとの検討を行いながら、12月の最終講義時までに修士論文を完了する。
- ⑧ 全体を通してミスがないよう点検、完成する。
- ⑨ 2月中旬の修士論文最終試験、論文発表会に向けての準備を行う。

【履修上の注意事項】

基本的に毎回執筆し、発表を行い、進捗を報告する。

【評価方法】

- ① 毎回個々に出した課題に取り組んでいるか。
- ② 学位論文。

【テキスト】

【参考文献】

その都度指示する。

日本語文化特殊研究Ⅱ

担当教員 葛綿 正一

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

修士論文を完成させる。

【授業の展開計画】

- ①年間研究計画の作成
- ②前年度末に提出した論文概要をふまえ、詳細な構想表を作成する
- ③7月末の中間発表会に向けて研究成果をまとめる
- ④中間発表での指摘、反省点をふまえ、構成、内容、方法等を総合的に再検討する
- ⑤夏期合宿において研究成果を発表する
- ⑥12月の講義終了時までに修士論文の下書きを提出する
- ⑦全体を通して総点検を行い、論文を手直しする（1月下旬提出）
- ⑧最終試験、発表会に向けて準備を行う

【履修上の注意事項】

各自の研究計画に沿って毎回発表を行い、進度を報告する

【評価方法】

- ①中間発表
- ②研究成果

【テキスト】

適宜、指示する

【参考文献】

適宜、指示する

日本古典文学特論 I A

担当教員 葛綿 正一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

古代の説話や歌謡を取り上げ、注釈をつけながら、日本の古代文学の特質について考える。また、南島の説話や歌謡との比較も試みたい。

【授業の展開計画】

- ①日本文学史における古代
- ②説話の注釈 一～五
- ③歌謡の注釈 一～五
- ④南島文学との比較 一～五

【履修上の注意事項】

「日本古典文学特論 I A・I B」と「日本古典文学特論 II A・II B」は隔年で交互に開講しています。

【評価方法】

レポートによって成績を評価する。

【テキスト】

適宜、指示する。

【参考文献】

適宜、指示する。

日本古典文学特論 I B

担当教員 葛綿 正一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

古代の説話や歌謡を取り上げ、注釈をつけながら、日本の古代文学の特質について考える。また、南島の説話や歌謡との比較も試みたい。

【授業の展開計画】

- ①日本文学史における古代
- ②説話の注釈 一～五
- ③歌謡の注釈 一～五
- ④南島文学との比較 一～五

【履修上の注意事項】

「日本古典文学特論 I A・I B」と「日本古典文学特論 II A・II B」は隔年で交互に開講しています。

【評価方法】

レポートによって成績を評価する。

【テキスト】

適宜、指示する。

【参考文献】

適宜、指示する。

日本古典文学特論ⅡA

担当教員 葛綿 正一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

中世・近世の説話や歌謡を取り上げ、注釈をつけながら、日本の中世・近世文学の特質について考える。また、南島の説話や歌謡との比較も試みたい。

【授業の展開計画】

- ①日本文学における中世と近世
- ②説話の注釈 一～五
- ③歌謡の注釈 一～五
- ④南島文学との比較 一～五

【履修上の注意事項】

「ⅡA」は前期に開講し、「ⅡB」は後期に開講するが、どちらから受講してもかまわない。

【評価方法】

レポートによって成績を評価する。

【テキスト】

適宜、指示する

【参考文献】

適宜、指示する

日本古典文学特論ⅡB

担当教員 葛綿 正一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

中世・近世の説話や歌謡を取り上げ、注釈をつけながら、日本の中世・近世文学の特質について考える。また、南島の説話や歌謡との比較も試みたい。

【授業の展開計画】

- ①日本文学史における中世と近世
- ②説話の注釈 一～五
- ③歌謡の注釈 一～五
- ④南島文学との比較 一～五

【履修上の注意事項】

「ⅡA」は前期に開講し、「ⅡB」は後期に開講するが、どちらから受講してもかまわない。

【評価方法】

レポートによって成績を評価する。

【テキスト】

適宜、指示する。

【参考文献】

適宜、指示する。

比較社会文化特論 I

担当教員 波平 勇夫

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

研究課題の展開領域は南島社会である。南島とは固有の歴史と個性的な文化を有する地域、琉球王国の班図である南西諸島を指す。この地域のミクロ・マクロレベルの社会構造と生活者の行動様式の特徴を折出することが、この講義の究極のねらいである。方法として、東アジアや東南アジア、そしてテーマによっては先進産業社会との「比較」が要請されている。比較の内容は、講師の研究歴に沿って都市の社会組織及び階層構造・階層変動である。要約すれば「アジアを中心とする比較都市社会論」といえよう。

キーワード：南島社会、都市の社会組織、南島の社会構造と変動。

【授業の展開計画】

- (1) 南島社会文化論の概要
- (2) 社会科学・行動科学の基礎
- (3) 「比較」方法論の課題
- (4) 都市分析の視点
- (5) 個別研究計画の開示と本講義への要請
- (6) 比較社会文化研究の事例
 - ①アジアの社会組織—互助組織
 - ・沖縄の模合
 - ・日本の頼母子（無尽）
 - ・韓国の契
 - ・中国の標会
 - ・インドネシアのアリサン
 - ②現代都市の社会組織
 - ・郷友会（町内会、県人会など）
 - ・自治会
 - ・グローバル化社会と地域組織の将来（NPOなど新型組織、無縁社会への対応）
 - ③階層構造&変動の比較
 - ・沖縄の階層構造と構造変動
 - ・日本の階層構造と構造変動
 - ・主要産業国の階層構造と構造変動
- (7) 南島社会の組織原理—アジアにおける比較社会文化論から—
- (8) 受講者個別テーマへの橋かけ
- (9) まとめ

【履修上の注意事項】

自分の研究テーマと講義内容との交流態度が望ましい。

【評価方法】

テーマに対する探求心と研究レポート（修士論文テーマとの関わりを持たせる。）

【テキスト】

特定のテキストない。

【参考文献】

講義に合わせてその都度紹介していく。

比較社会文化特論Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目は、主としてドキュメント分析、会話分析、インタビュー、聞き取り調査、参与観察など質的調査の方法に依拠したフィールドワークを行うためのトレーニングを目的とする。とくに、新聞・雑誌記事、資料文書などのデータの分析法（内容分析等）を習得するとともに、聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析などに関する基本的理解を踏まえながら、実践的な能力を習得する科目である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：参考資料等の配布
2	問題発見と問題構成（質的調査とその分析の意義・目的—仮説検証と仮説発見・構成の相違）
3	質的データ分析の一般理論的基礎①：ミルズ「類型的語彙」論
4	質的データ分析の一般理論的基礎②：ガーフィンケル「エスノメソドロジー」
5	質的データ分析の一般理論的基礎③：ゴフマン「行為の演技論」
6	質的データ分析の一般理論的基礎④：現象学的社会学における「間・主観性」と調査の主・客問題
7	質的データ分析の実践①：内容分析（新聞・雑誌記事、資料文書等）
8	質的データ分析の実践②：ドキュメント分析（記録日誌、日記、手紙等の分析）
9	質的データ分析の実践③：聞き取り調査によるデータ収集の問題（インタビュー空間の設定と臨床性）
10	質的データ分析の実践④：ライフヒストリー分析（日常的経験世界と「語られる」経験世界の境界）
11	質的データ分析の実践⑤：様々な観察法I（参与観察と非参与観察の境界）
12	質的データ分析の実践⑥：様々な観察法II（組織的観察法と非組織的観察法など）
13	学生の個別テーマに則した質的調査法と分析法の討議①
14	学生の個別テーマに則した質的調査法と分析法の討議②
15	まとめとふりかえり
16	補習

【履修上の注意事項】

できるだけ前期の特論Ⅰから連続して受講することが望ましい。また、議論が抽象的になり過ぎないように、各々の研究テーマを意識しながら関わっていくように。教員が指定した文献以外にも受講生で提案したいものがあれば、カルチュラル・スタディの視点から大きく逸脱しない程度にかぎり活用していきたい。

【評価方法】

出席状況と発表報告のプレゼンテーション技能、問題の捉え方、議論への参加の積極性などを鑑み、総合的に評価する。

【テキスト】

佐藤郁哉『質的データ分析法—原理・方法・実践』、新曜社、2008年。谷富夫編『ライフヒストリーを学ぶ人のために』、世界思想社、1996年。

【参考文献】

適宜紹介する。

東アジア文化人類学特論Ⅱ

担当教員 津波 高志

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄側から奄美諸島の文化をいかに理解すべきかという点を中心に講義を行う。特に、現在の文化の研究であっても、その背後にある時間的な深みに配慮することが如何に大切であるかについて学生に意識させたい。

【授業の展開計画】

3時間ほど、総論的に講義する。その後は、近現代・近世・古琉球という具合に、琉球史の時代区分に沿いながら、各論を展開する。

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

レポートで評価する。

【テキスト】

【参考文献】

講義中に文献を挙げる。

東アジア文化人類学特論Ⅲ

担当教員 津波 高志

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄側から奄美諸島の文化をいかに理解すべきかという点を中心に講義を行う。特に、現在の文化の研究であっても、その背後にある時間的な深みに配慮することが如何に大切であるかについて学生に意識させたい。

【授業の展開計画】

近現代・近世・古琉球という具合に、琉球史の時代区分に沿いながら、各論を展開する。

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

レポートで評価する。

【テキスト】

【参考文献】

講義中に文献を挙げる。

文化財保存特論

担当教員 上原 静

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人類の歴史のなかで営為により残された遺産の中でもとくに物質的な文化財を中心に、その特質や変遷などについて学び、現代社会において、どのように保護し、活かしていくのか考える。とくに現在の文化財行政で実践されている埋蔵文化財や史跡、名勝、記念物、建造物などの調査・研究、保存技術などの成果を学び、復元整備と観光等における活用の実情や課題などを具体的に紹介し考察する。

【授業の展開計画】

基本的には講義型式をとる。
内容は文化財保護法、文化財の指定、保存と整備、活用のあり方についてとりあげる。

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

授業参加の度合い、レポートの提出で評価する。

【テキスト】

【参考文献】

特に指定しない。講義の中で、随時紹介する。

民族誌特論

担当教員 一福田 アジオ

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本授業では、日本の民俗学の形成・展開過程を、学問的方法や研究内容と社会状況との関係性に注目しながら跡づけ、現在の問題点を明らかにすることを目標とする。主として柳田国男を中心に展開した民俗学の形成過程を、その周辺にいた人びとの活動も視野に入れて考察し、「野」の学問としての特色を把握する。その過程において沖縄の調査研究の果たした役割を明確にする。そして、一九五〇年代末から始まる大学中心の民俗学研究的進展を取り上げ、アカデミック民俗学の展開とそこに含まれた問題点を論じる。

【授業の展開計画】

- 1 日本の民俗学と欧米の民俗学
- 2 近世における民俗への関心と研究の萌芽
- 3 近世文人の民俗認識
- 4 人類学の土俗と土俗学
- 5 柳田国男の登場
- 6 山人・山民への関心
- 7 組織化への努力
- 8 常民の学としての民俗学
- 9 沖縄への注目
- 10 重出立証法と圏論
- 11 戦時体制下の民俗学
- 12 敗戦と民俗学
- 13 日本民俗学会と民俗学研究所
- 14 アカデミック民俗学
- 15 地域・都市・比較
- 16 現代民俗学

【履修上の注意事項】

各人の関心を講義の中に組み込むので、日本の民俗学史、あるいは沖縄研究の展開についての自己の問題意識や疑問を表明できるようにすること。

【評価方法】

授業への参加度、レポートなどを総合的に評価する。

【テキスト】

福田アジオ『日本の民俗学—『野』の学問の二〇〇年』吉川弘文館、2009年

【参考文献】

講義の中で随時紹介する。